

## バッチリジャンボ

新規登録日：平成20年11月19日

イマゾスルフロン 2.25%  
 ピラクロニル 5.0%  
 プロモブチド 22.5%

## 適用病害虫の範囲及び使用方法

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量	本剤の使用回数	使用方法	適用地帯
移植 水稲	水田一年生雑草及び マツバイ ホタルイ ヘラオモダカ (北海道、東北) ミズガヤツリ (北海道を除く) ウリカワ ヒルムシロ セリ(北陸を除く)	移植直後～ノビエ2.5葉期まで ただし、移植後30日まで	壤土～埴土	小包装 (パック) 10個 (400g) /10a	1回	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる	北海道、関東・東山・東海の普通期及び早期栽培地帯
			砂壤土～埴土				東北、北陸、近畿・中国・四国の普通期及び早期栽培地帯
		壤土～埴土	九州の普通期及び早期栽培地帯				

イマゾスルフロンを含む農薬の総使用回数	ピラクロニルを含む農薬の総使用回数	プロモブチドを含む農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	2回以内

## 使用上の注意事項

- (1) 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの2.5葉期まで(但し九州は2葉期まで)に時期を失ないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイは2葉期まで、ヘラオモダカは2葉期まで(但し東北は発生始期まで)、ミズガヤツリは2葉期まで(但し北陸は発生始期まで)、ウリカワは2葉期まで(但し北海道、東北は発生始期まで)、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前～始期が本剤の散布適期である。
- (2) 散布に当たっては、水の出入りを止め5～6cmの湛水状態に保つこと。  
本剤散布後、少なくとも3～4日間は通常湛水状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。
- (3) 本剤は小包装(パック)のまま、10アール当たり10個の割合で水田に均等に投げ入れること。
- (4) 藻や浮き草が多発している水田では、拡散が不十分となり部分的な薬害や効果不足を生じることがあるので使用を避けること。
- (5) パックに使用しているフィルムは水溶性なので、ぬれた手で作業したり、降雨で破袋することがないように注意すること。
- (6) 移植前後の初期除草剤による土壌処理との体系で使用する場合には雑草の発生状況をよく観察し、時期を失ないように適期に散布するよう注意すること。
- (7) 浅植え、浮き苗が生じないように、代かき、均平作業及び植え付けは丁寧に行うこと。未熟有機物を施用した場合は、特に丁寧に行うこと。
- (8) 軟弱苗を移植した水田、極端な浅植えをした水田、極端な深水となった水田及び砂質土で漏水の大きな水田(減水深2cm/日以上)では、薬害を生ずる恐れがあるので使用しないこと。
- (9) 田植え前に生育したミズガヤツリには効果が劣るので、完全に防除してから使用すること。
- (10) 著しい降雨が予想される場合には除草効果が低下する恐れがあるので散布を控えること。
- (11) 本剤は、その殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (12) 移植水稻を栽培した後にいぐさを栽培する水田では使用しないこと。
- (13) 本剤散布後の田面水を他作物に灌水しないこと。
- (14) 空き袋等は圃場などに放置せず、適切に処理すること。
- (15) 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 安全使用上の注意事項

- (1) 誤食などのないよう注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けること。
- (2) 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをする。

#### 水産動植物に関する注意事項

- (1) 水産動植物（藻類）に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 散布後は水管理に注意すること。
- (3) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

#### 貯蔵上の注意事項

- (1) 水溶性フィルムは吸湿性があるので湿気には十分注意し、使い残りは外袋の口を固く閉じて保管すること。また、強く加圧されると水溶性フィルムが劣化するおそれがあるので下積みにならないようにすること。
- (2) 直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。

